

福岡県篠栗町

ませぐり

議会だより

No.193

よくがんばったね



だから伝えたいことがある

(意見交換会 寺子屋講師) 2

平成28年度決算認定 4

ここをどうする!?(8人が一般質問) 9



平成29年9月議会号

篠栗小学校運動会

特集 意見交換会

だから伝えたい ことがある

第7回 寺子屋講師

今回は篠栗北中学校区で活動するボランティア講師の皆さんです。基礎学習はもちろん、学校や塾では学ぶことができない地域社会との関わりも学べる、愛情いっぱいの勉強会。

寺子屋の概要は？

●平成22年10月から活動しています。年に15回、4人の講師で運営しています。

●寺子屋担当の先生に、国語・英語・数学のプリントを準備いただき、3教科の基礎を指導しています。

生徒の構成は？

●基礎力をもっとつけた生徒、1・2年生を中心に募集しています。3年生は原則、募集していませんが、夏休みまでの期限付きで受け入れている生徒もいます。

●今年は、1年生が9名、2年生が6名、3年生が3名の18名ですが、応募は30名を超えていました。絞り込みは学校の先生にお願いし

ました。

指導上、心掛けていることは？

●できるだけ褒めるようにします。

次の意欲に繋がりますから。

●×はなるべく付けないようにしています。○は大きく付けます。

●叱ることも大事だと思っています。世の中、褒めてくれるばかりじゃありませんから。

●生徒の中には、「こんな勉強して、何の役に立つのか」と言う子もいるので、「こんなことに結び付くよ、役に立つよ」と、問題を解きながら教えたりしています。

学校や家庭からの反応は？

●生徒がどう変わったのかは分か

りませんが、「こんな変化がありましたよ」など聞きたいです。

やり甲斐を感じることは？

●自力で問題が解けた時に顔がパツと輝くような瞬間があつて、「やってよかった」と感じます。

●声も出せなかった子が、1年経つ頃には少し積極性が出て自分から会話するようになったり、そんな成果を見る時は嬉しいですね。

今の子ども達をどう思いますか？

●最初の頃は、服装も少し乱れがちで、タメ口の子が来て、ちょっと怖かったです。実際に接すると可愛いんです。よく出席して

最近はそんな破天荒な子はいなくなりました。

その年々でカラーが違いますが、今年は大人しいです。

●今、企業が一番頭を痛めているところは、「成績が良い」こと、「仕事ができる」ことが、ほとんど相関が無いということ。その見極めが難しいですね。

学校は今、できるだけ競争を排除していますが、企業は逆に能力主義で、どんどん競争させますから、その差は大きいですよ。

ある程度の競争、強さも必要だと思います。



篠栗北中学校は幼稚園からの一貫教育ですが、どう思いますか？

●実体験として、幼稚園・小学校・中学校という流れでメンバーが同じなので、「いじめ」などの問題が起きると、そこから抜け出すことが、ある意味、難しい気がします。●高校に入って突然、ほかの水に会うというか、抵抗力が無くて挫折する子が比較的多いと聞きます。仲良くなって良いところと、染まってしまうと抜け出すのが難しいという面があると思います。

小・中学校の交流事業などの取り組みを見ると、「一貫校であればこそ」とは思いますが。

将来のこの町を担う生徒さんに期待することは？

●社会に貢献する人になってもらいたいですね。

ボランティアで受けたものを、恩返しではないですが、循環して繋がっていくような、何年先でも、違った形でも嬉しいですね。

●出来たら、ボランティアで帰ってきてくれると最高に嬉しいです。

町に要望は？

●夏休みなど長期休暇の時に施設を開放してほしいですね。休みの

時に家で勉強と言っても、気が緩んで勉強に集中できない生徒もいて、毎日は難しくても、そんな場所があれば喜ぶと思うし、親も安心できるのではないかと思います。●クリエイトのロビーとか、遅くまで勉強している姿を見かけるんですよ。場所だけなので、提供してほしいと思います。

私たちに對するご意見は？

●講師は誰にでもできますので、講師になってください。(笑) —生徒で行きたいです。(笑)—

●議会広報でこのような企画は良いことだと思っています。いろいろな方が、いろいろな活動をしていく、町のことがかかりますし、篠栗の町をより深く知ってもらえるのではないのでしょうか。

更に、住み良い篠栗町、にっしていただければと思います。

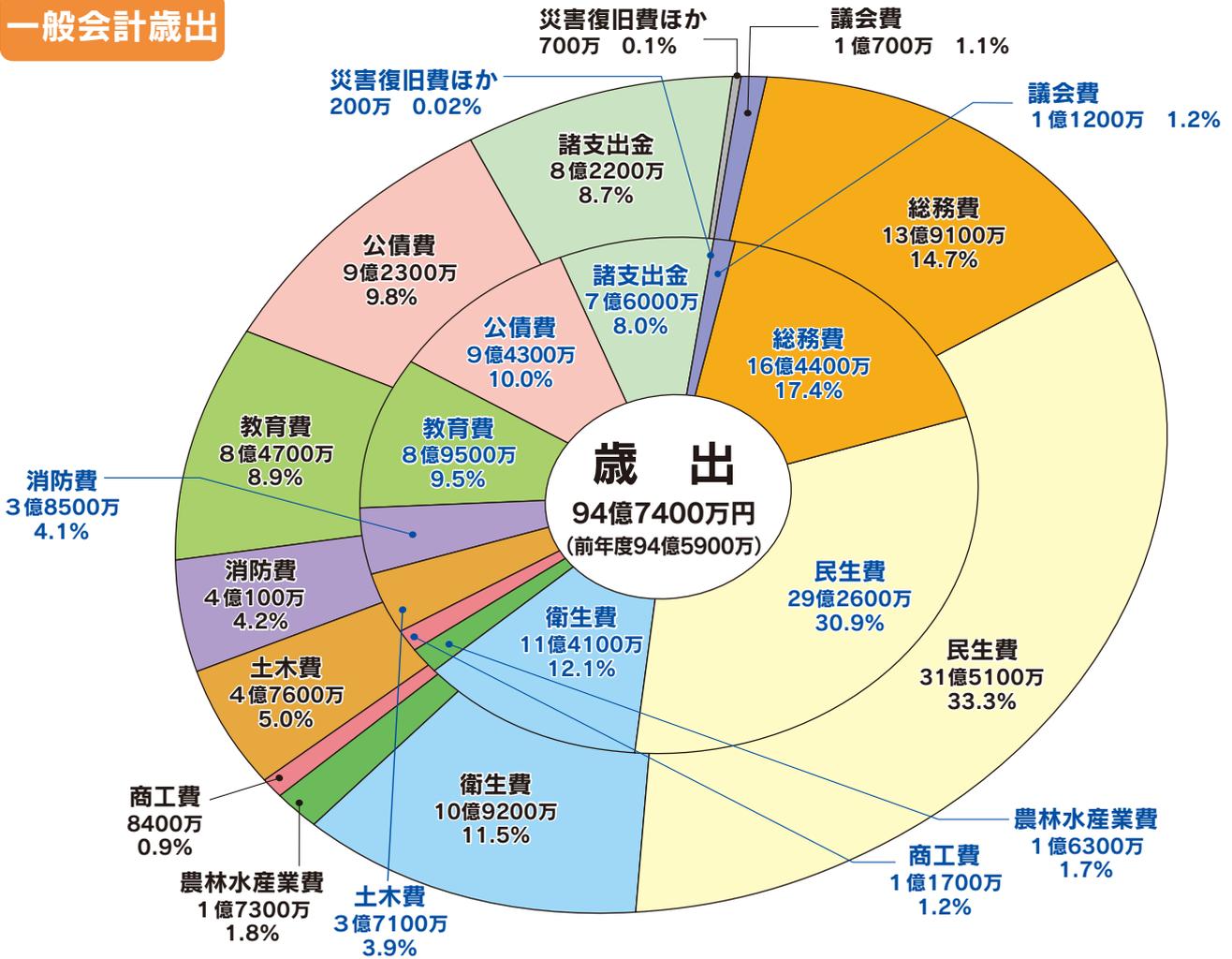
「褒めて育てる」を实践されるボランティア講師の皆さん。最後には私たちにも、エールをいただきました。

もっと皆様に理解される議会になるよう努力をいたします。ありがとうございました。

9月定例会

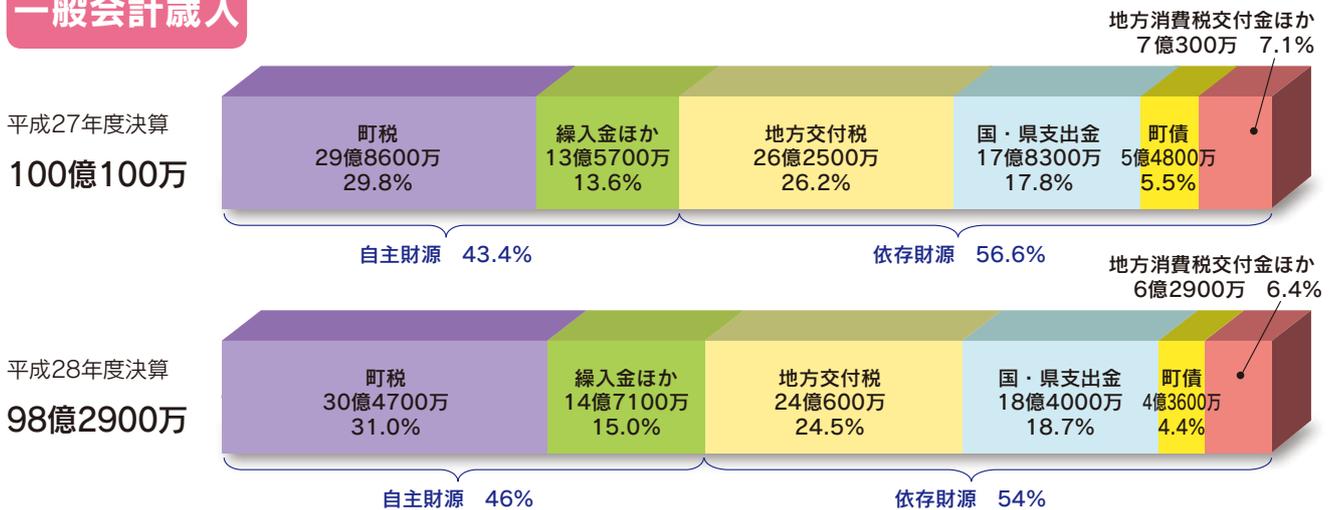
9月5日から15日まで、11日間の会期で開催しました。総務建設常任委員会、予算・決算特別委員会において、町長提案の条例案や補正予算、決算など計12議案を審査しました。そのほか、選挙案1件と意見書案2件がありました。各議案に対する賛否一覧を8ページに掲載しています。

一般会計歳出



内円が27年度
外円が28年度
(百万円未満四捨五入
単位：円)

一般会計歳入



平成28年度 決算認定



決算特別委員会

特別会計決算

(百万円未満四捨五入 単位：円)

会 計	決 算 額		対前年度増減	
	歳 入	歳 出	歳 入	歳 出
国民健康保険特別会計	36億1700万	37億4100万	400万	△2100万
後期高齢者医療特別会計	3億7100万	3億6900万	1200万	1600万
篠栗北地区産業団地整備事業特別会計	7900万	5000万	平成28年度創設	

公営企業会計決算

会 計	区 分	決 算 額		対前年度増減	
		収 入	支 出	収 入	支 出
流域関連公共下水道事業会計	収益的収入及び支出	7億8400万	7億9100万	△1500万	600万
	資本的収入及び支出	3億2200万	4億3900万	700万	1500万
水 道 事 業 会 計	収益的収入及び支出	4億8100万	4億9400万	△300万	0
	資本的収入及び支出	0	1億4600万	0	△1800万

平成28年度 決算審査報告

一般会計・特別会計・上下水道事業会計

監査委員 今長谷 潔
大楠 英志

審査の結果

平成28年度各会計の歳入歳出決算書は、関係法令に準拠して作成されており、その決算計数は、関係諸帳票及び証憑書類と合致しており、正確であることを確認した。

また、予算の執行・収入支出事務の処理及び財産管理は、例月現金出納検査、定期監査等を通して監査した結果、概ね適正であった。

指摘事項

1. 公の施設の設置管理条例等の不備

- (1) 篠栗町健康広場設置条例 (2) 篠栗町集会所設置条例

28年度の主な事業



▲下町地区法面復旧工事(1225万円)
平成28年7月の豪雨により崩壊した法面の復旧工事。



▲ベントナヒルズ健康広場整備工事(1689万円)
町が各区に設置している健康広場の整備工事。



▲七曲り線災害対策工事(3587万円)
平成21年7月の大雨により山林の谷筋の土砂が崩壊し、町道の通行ができなくなったことによる災害対策工事。



▲篠栗中学校教室内装木質化工事(826万円)
平成26年からの事業で、平成28年度に中学校教室の木質化(39教室)が終了。

- 城戸配水管更新工事 (631万円)
- 城戸送配水管緊急仮設工事 (406万円)
- 篠栗北中学校舗装補修工事 (895万円)
- 篠栗町内道路舗装補修工事 (1630万円)

- 尾仲乙犬地区水路改修先行工事 (1842万円)
- 尾仲乙犬地区水路改修工事 (4547万円)
- 上町水車橋線道路維持工事 (415万円)

路は、完成後通常の道路としての利用が可能。また、時間常により渋滞が見られる県道猪野篠栗線の迂回路としての機能が期待できる。

土地利用計画平面図 (案)



問 廃止後の終点部や産業団地開発後の新設道路の利用形態は。

答 終点部は既存のとおり国道に接続する。新設道路は、完成後通常の道路としての利用が可能。また、時間常により渋滞が見られる県道猪野篠栗線の迂回路としての機能が期待できる。

問 当該区間は、産業団地開発により、国道201号に接続する新たな路線により分断されることや、開発行為等の審査基準となる6M以上の幅員を確保することができないため、管理用道路としての機能は残し、路線の一部を廃止するもの。

篠栗北地区産業団地に隣接する路線の一部廃止
町道の路線一部廃止

意見書を国に提出

「全国森林環境税」の創設に関する意見書

(提出の理由)

市町村が主体となった森林・林業施策の推進は、地球温暖化防止のみならず、国土の保全や地方創生、快適な生活環境の創出につながるが、市町村には、そのための恒久的・安定的な財源が大幅に不足している。

このため、市町村が主体となった森林・林業施策等を維持するための新たな税財源「全国森林環境税」の早期導入を強く求めるもの。

道路整備に必要な予算確保に関する意見書

(提出の理由)

現在、道路事業においては、「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」の規定により、地域高規格道路や交付金事業の補助率等が高上げされているが、この高上げ規定が平成29年度までの時限措置となっている。

今のままでは、平成30年度以降、補助率等が低減することとなり、地域づくりに悪影響を及ぼし、活力の低下を招きかねないため、国に道路整備に必要な予算の確保と、補助率等の高上げ措置の継続を求めるもの。

補正予算

一般会計補正予算

主な補正については別表1・2のとおり。

(表1) 歳入の主なもの

地方特例交付金	786万円
国庫支出金(社会保障・税番号制度システム整備費補助金など)	689万円
県支出金	223万円
繰入金	1466万円
繰越金	5051万円
町債(自然災害防止事業債など)	6660万円
地方交付税	△2754万円

(表2) 歳出の主なもの

総務費(マイナンバー旧姓併記対応等システム改修業務委託など)	1057万円
民生費(国庫補助金返還金など)	857万円
農林水産業費(極楽池維持工事など)	1079万円
土木費(津波黒地区水路改修工事など)	6004万円
教育費(クリエイト篠栗エアコン改修工事等)	1513万円
諸支出金(北地区産業団地整備事業特別会計繰出金)	1466万円

国民健康保険特別会計補正予算

歳入 負担金及び交付金の額の確定によるもの

歳出 拠出金等の額の確定及び国庫金等の清算に伴う償還金の補正によるもの

後期高齢者医療保険特別会計補正予算

歳入・歳出ともに保険料・滞納繰越額の確定に伴う保険料負担金等の補正によるもの

篠栗北地区産業団地整備事業特別会計補正予算

県道側調整池からの雨水排水路となる津波黒地区水路保護のための設計業務委託費用と詳細設計における地質調査業務委託費用を補正するもの

各会計補正予算額

(万円未満四捨五入)

会 計	補正額	補正後予算額
一般会計	1億2122万円	97億8796万円
国民健康保険特別会計	5417万円	39億6652万円
後期高齢者医療特別会計	917万円	4億1699万円
篠栗北地区産業団地整備事業特別会計	1466万円	6億8765万円

人事案件

篠栗町固定資産評価審査委員会委員を選任

○秋尾 勝男氏（再任）

任期は平成29年10月1日から3年間

選挙案件

糟屋郡篠栗町外一市五町財産組合議会議員選挙

任期満了にともなう組合議会議員1名の選挙について、指名推選により

三浦 正氏（町長）に決定。

委員会活動

○7月7日

町村議会常任・議連正副委員長研修会

○7月13日

工事箇所現地調査

○9月8日

文教厚生常任委員会
 ことも育成課から夏季拡大児童クラブ実施の報告を受ける。

議決結果一覧表

	議案番号	議 案 名	議 決 結 果
9 月 定 例 会	47	篠栗町固定資産評価審査委員会委員の選任	全員賛成同意
	48	町道の路線一部廃止	全員賛成可決
	49	平成28年度篠栗町一般会計歳入歳出決算の認定	全員賛成認定
	50	平成28年度篠栗町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定	全員賛成認定
	51	平成28年度篠栗町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定	全員賛成認定
	52	平成28年度篠栗町篠栗北地区産業団地整備事業特別会計歳入歳出決算の認定	全員賛成認定
	53	平成28年度篠栗町流域関連公共下水道事業会計欠損金の処理及び決算の認定	全員賛成認定
	54	平成28年度篠栗町水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定	全員賛成認定
	55	平成29年度篠栗町一般会計補正予算（第2号）	全員賛成可決
	56	平成29年度篠栗町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	全員賛成可決
	57	平成29年度篠栗町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	全員賛成可決
	58	平成29年度篠栗町篠栗北地区産業団地整備事業特別会計補正予算（第2号）	全員賛成可決
	選挙案	糟屋郡篠栗町外一市五町財産組合議会議員の選挙	指名推選 三浦正
意見書案	全国森林環境税の創設に関する意見書	全員賛成可決	
意見書案	道路整備に必要な予算確保に関する意見書	全員賛成可決	

1人が1般質問

8人が1般質問

1. 栗須 信治 議員	10
・ 減災に向けた水害対策は	
2. 大楠 英志 議員	11
・ 認可保育園・認定保育園の運営状況を問う	
・ 「社会福祉法人」養護老人ホームの運営状況は	
3. 松田 國守 議員	12
・ 九州北部集中豪雨災害から得た教訓は	
4. 荒牧 泰範 議員	13
・ 中心部のインフラストラクチャー構想の提示を	
・ 子育て世代の流入を図るべきでは	
5. 山田 眞士 議員	14
・ 認知症での精神障害者保健福祉手帳の申請周知を	
6. 村瀬 敬太郎 議員	15
・ 収納課設置の効果は	
7. 横山 久義 議員	16
・ 広域合併の顛末と今後の進路について詳細に説明するべきでは	
8. 田辺 弘之 議員	17
・ 通学路の安全確保は	

一般質問とは、議員が執行部に、その町の行政全般の事務執行状況や政策方針などについて、報告や説明を求め、所信や疑問を尋ねることです。

年4回開催される定例会の中で行うもので、臨時会では行いません。

ここに掲載したのは要約で、議事録の全文は議会事務局・町立図書館・クリエイト篠栗・オアシス篠栗・各公民分館および町ホームページで閲覧できます。

減災に向けた水害対策は

都市整備課長「浚渫を強く要望していきたい」



栗須 信治

【都市整備課長】

流域の1市6町で構成する、多々良川水系改修促進協議会にて、県に要望しているが、災害復旧事業や緊急性の高いものが優先され実現できていない。九州北部豪雨のような災害が、いづれここで発生してもおかしくない状況にあり、引き続き、強く要望していきたい。

【問】

浸水想定区域にある橋げたなどに、地域の方が、目安となるような水位計の設置はできないか。

【都市整備課長】

防災に対する住民への注意喚起につながるので検討していきたい。

【問】

減災には、地域における自助・共助による防災力の強化が重要である。命を守る避難訓練を推進すべきではないか。

【総務課長】

専門研修機関へ職員を積極的に派遣し人材育成を行うほか、先進地の訓練方法を参考にしながら、全町民が、参加できる効果的な訓練を検討していく。

【問】

人的被害の発生する可能性が、明らかに高まった場合、避難勧告の発令は、どのようなタイミングで出すのか。

【総務課長】

水害については多々良川の金川橋の水位計が避難判断水位である3.09mに到達し、さらに水位の上昇が予想される場合、土砂災害については、土砂災害警戒情報が発表された場合に発令することになっている。

発令基準は、広報誌・ホームページに掲載し周知している。

【問】

「水害サミット」で災害経験のある首長さんが、「躊躇なく避難勧告を出すことが、大事だ」と

発言しているが、町長の考えは、

【町長】

空振りを恐れず、勧告を出す判断が必要だと思う。



多々良川

認可保育園・認定保育園の 運営状況を問う

町長「訪問調査等で必要な改善に努めている」



大楠 英志

問.....

栗の子保育園が町立から「社会福祉協議会」にかわり一年を経過した。

町立と比較して、運営・財政面での違いを尋ねる。

また、保護者向けのアンケート調査の結果報告を求めらる。

答【こども育成課長】

保育理念等の基本方針は引き続き堅持し、1年間は、6名の町職員を継続派遣して、園児と保護者の不安解消に努めた。

28年度から国庫・県負担金が約1億円交付され、比較すると約7800万円の節約効果があった。

アンケートは円滑な移管、運

営確認のため、在園児の保護者に実施した。回収率は65%で満足、「やや満足」の回答が大勢を占めた。引き続きは適切に行われたと評価している。

問.....

28年度の町内保育園・認定こども園の給付総額は約6億円を超えると思われるが、支払額を尋ねる。

財源は、保育料、国・県交付金、町一般財源などだが、内訳を尋ねる。

答【こども育成課長】

認可保育園運営協議会委託料

栗の子保育園

1億3300万円

篠栗保育園

9764万円

勢門幼児園

1億 848万円

やまの子保育園

1億 926万円

認定こども園運営協議会委託料

あすなろ保育園

6973万円

キッズ・ドリーム幼稚園

8242万円

和田幼稚園

8084万円

総合計は

6億8754万円

その財源は、特定財源として、認可保育所保育料

1億4057万円

国庫負担金

2億5022万円

県負担金

1億3647万円

一般財源

1億の0.27万円である。

(※万円未満切り捨て)

問.....

定員超過の認定こども園が、園児70人に、40人分の給食しか与えていない等の実態が報道され問題となった。

保育園・認定こども園における、適正運営の確認作業はなされているか、現状を町長に尋ねる。

答【町長】

担当職員が各園を訪問し、法令に基づき適正運営されているのか、聴取し保育現場の観察や助言している。また、施設長と担当課による定期会議を開催し、情報共有を図っている。

29年度から担当課職員による事前通告なしの訪問調査を実施し、現場の状況把握と必要な改善に努めている。

「社会福祉法人」養 護老人ホームの運営 状況は

町長「法整備も含めて、しっかり対応していきたい」

九州北部集中豪雨災害から 得た教訓は

産業観光課長「危険個所をなくす作業を
引き続き進める」



松田 國守

【産業観光課長】

町内のスギを主体とした人工林は71%で県平均の63・9%を上回っている。

森林所有者の多くが1ヘクタール未満の小規模所有者で、自己努力だけでは伐採、造林、保育・間伐等を計画的に実施する事は困難な状況である。

平成20年度から県が森林環境税で実施している荒廃森林再生事業を積極的に活用し、昨年度までに約297ヘクタールの荒廃した人工林の間伐を行った。今年度も15・6ヘクタールの間伐を予定している。

【問】 このたびの豪雨災害から得た教訓は。

【産業観光課長】

荒廃森林再生事業による間伐、森林経営計画の実施により、森林の持つ公益的機能の維持向上にも努めているところで、これまで以上に強く福岡県へ治山要望を行い、災害対策を進めなければならないと感じた。

【問】 これからの課題は。

【産業観光課長】

林業生産活動の停滞とともに、林業就業者の減少および高齢化が進む中、適正な森林整備を進めて行くためには、人材の確保と育成の定着のための労働環境の改善が必要で、これらの課題解消に取り組んでいく。

【問】

庁舎用非常電源が、水害被害のリスクがある場所に設置されており、浸水対策が未整備だと報道されたが、我が町の整備状況は。

【町長】

ハザードマップ上では、庁舎は想定浸水区域に入っているが、平成21年中国九州北部豪雨の際は、庁舎前の道路は冠水に至らず、発電機は道路よりもさらに80センチかさ上げされている。安全については十分考慮して対応しているので、現状でも心配ない。

【問】 我が町は約70%の山林を有している。天然林と人工林の割合とその管理状況は。

本年7月に発生した九州北部豪雨は数十年に一度という記録的な雨量となり、福岡、大分、佐賀県の各地が被災した。今回、被害を大きくした最大の要因は流木だったと報じられた。

その流木は伐採時期を過ぎた人工林のスギやヒノキなどで、浅い表土層と共に崩れた「表層崩壊」が多発したことが大きな要因だと言われている。



中心部のインフラストラクチャー構想の提示を



荒牧 泰範

町長「現時点では具体的な構想はない」

問 役場が近い将来移転するの

か。しなければ、どのような形で新庁舎を建設するのか。その場合に基盤施設・道路をどのように配置し、社会基盤の動きにどのように対応するのか、構想を示すべきと思うが。

答【町長】

庁舎建替えの場合、安全安心の確保と利便性向上を図る選択をする必要がある。現在、役場内の検討委員会において検討している。

質問の構想は現時点では行っていないが、庁舎の将来計画をもって社会的環境基盤の形成を考える。

子育て世代の流入を図るべきでは

町長「検討して人口維持事業を推進し流入を図る」

問

町長は将来の人口目標を2万9千人にと考えている。

「私の現況よりの増加論」は「日本全体が減少する中でタライの水の奪い合いであり意味が無い」と言われたが、居住地として選んで頂かなくてはならない事は明白である。

そのためには、他町でも例がある子ども医療費を中学生まで負担金を無料として家計への負担を削減し、以前一般質問で提案したICタグによる通学見守りを実施し、安心子育て環境を作り、昔のように子どもたちがボール遊びを自由に出来るように、放課後・休校日のグラウンド・体育館を開放し、サッカーや野球を好きだけ楽しめるお金のかからないプレイランドの町とするなどして、子育て世代の流入を図るべきと思うがいかがか。

答【町長】

28年度は自然増を社会減が勝った状況で、前年より108人減少している。

人口減の影響として、店舗の撤退や子ども・子育て関連施設の縮小、公共交通機関の縮小で更なる人口減少が加速する。

推計では2060年に2万5千人となる分析を受けて「篠栗町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し2万9千人の維持を目指している。

最近の転出事由は仕事の都合や住宅購入等が見受けられることから、新たな雇用機会創出と新規住宅開発の促進を両輪として進める。

提案された案についても検討していくとともに、人口維持のため、地方創生事業を更に推進していくことで、子育て世代の流入を図る。



認知症での精神障害者保健福祉手帳の申請周知を

福祉課長「手帳取得の広報に努めたい」



山田 眞士

問

認知症の方の精神障害者福祉手帳（以下手帳）は年齢の区切りなく申請でき、取得後は医療費などさまざまな給付を受けられる可能性があるが、次の3点について質問する。

- ① 本町における認知症の方の人数、そのうち手帳を取得している人数、そして認知症の人数の増減は。
- ② 手帳を取得した認知症の方が受けられる主な福祉制度やサービスは何かがあるか。
- ③ 認知症で手帳を申請し、取得できる可能性があるということを知らない町民の方が多いので広報のさらばりを通して通知してはどうか。

答【福祉課長】

① 篠栗町における認知症の方の人数という統計資料はないが、8月末現在認知症を主な理由として手帳を取得された方は6名である。認知症を主たる理由として治療を受けた方の人数は増えている。

② 篠栗町で手帳を所持されている方は、福祉タクシー

料金補助、西鉄バス、西鉄電車、市営地下鉄の半額免除、N T T電話番号案内の無料化、所得税、住民税の障害者控除を全ての受給者が受けることができる。ほかに受けられるサービスがあるが、NHK放送受信料は住民税の内容が関係するなど、受けるサービスにさまざまな条件があるし、その条件も年々変わってきているので、そのため手帳を取得された方には「障害者福祉制度の案内」という冊子を渡すとともに、必要に応じて説明をしている。

③ 認知症の症状が出ている方は、病院の受診や介護サービスを受けている方が多いと思われ、まずは医師やケアマネジャーと連携を取り、手帳取得の広報に努めたいと考えている。直接役場に来られた方には、手帳申請一覧を渡して丁寧な説明を努めたいと考えている。



福祉課 窓口

収納課設置の効果は



村瀬 敬太郎

収納課長「専門部署設置で成果は上がっている」

問 以前「収納課新設」の質問をしたが、設置から1年余り。今回は、その「効果」を尋ねる。

収納課設置の目的のひとつは、債権の一元管理による収納率の向上だが、徴収率の推移と糟屋地区内での比較はどうか。

答【収納課長】

町全体の徴収率は、
平成26、27年度 95・1%
平成28年度 96・0%
で、0・9%の伸び。
内訳は、現年分が0・1%増
滞納分が7・7%増となっている。

徴収率、特に滞納分が増加した要因は、

①専任で債権管理を行うため効率的である。

②相談窓口の一本化で、住民目線の納付計画が作成できる。

③管理システムの更新による業務の効率化。

④職員の資質向上により公平適正な取組みが出来た。
と考えている。

糟屋地区内での比較は昨年と同じで5番目だが、上位との差は縮小している。

問 ※ F P 相談の現状は。

答【収納課長】

導入当初は58件で始まったが、28年度は15件。
減少の要因は過去3年間の成果により、困難な案件が減少したこと、職員の知識向上で、その前に解決した案件が増えたことも一因と考える。

糟屋地区内で設置の可能性は。

答【収納課長】

福岡県では、政令市を除く全ての市町村が各県税事務所と共同で徴収業務を実施し、成果を上げている。
糟屋地区内では、本年度から中南部6町で徴収職員の相互派遣協定を締結し、徴収業務を効率化している。

以上のことから、地方税回収機構設立は時期尚早と考える。

問

納付が遅れている方への対応はどうか。

答【収納課長】

督促状の送付、隣戸訪問や通知書投函、催告書により納付を何度もお願いしている。
残念ながら「連絡がない」「約束を何度も不履行」といった事案に対して、搜索・差押え処分を行っている。

問 今後の方針は。

答【収納課長】

法令に基づく調査検証により、未収金削減のための債権管理を積極的に行い、町民の皆様のご理解を得ながら、更なる徴収率向上に努力したい。

要望

住民理解が更に得られるよう、広報や説明にも努力をいただきたい。

※ F P 相談事業

資産運用やライフプラン策定などの専門職であるファイナンシャルプランナーが納税交渉に同席し、家計問題を専門知識で解決し、納税に導く事業。

問 近年、地方税回収機構を設置し、回収困難な案件を移管する事例が増加している。

広域合併の顛末と今後の進路について詳細に説明するべきでは

町長「平成21年3月議会の施政方針の中で説明している」



横山 久義

が、方針転換の理由、その後の展望を町民に丁寧に説明する必要があると思う。

答【町長】

平成21年3月の施政方針で、「昨年まで粕屋中南部6町の合併は重要課題だと言ってきた。新法期限までの合併は断念したが、効率的な行政運営を考えた時、合併は再度検討する時代が来ると考える。その時のためにも篠栗らしさを保持しながら、しっかりと仕事のできる職員の育成に引き続き取り組む。」と結んでいる。同様の内容を年度ごとの施政方針で申し上げている。

問

②竹林整備ボランティア

平成18年に、この活動が始まった時は、今後の竹林整備を考えてのことだと期待した。しかし、最近この活動の話を聞かなくなつた。そこで、この活動が続いているのか、またこの事業から何をj得ることが出来たのかを尋ねる。

答【産業観光課長】

この事業は、平成18年度3回、19～20年度5回、21年度は2回、22～23年度は3回実施し、実施回数は18回、延べ参加人数は421名、実施面積は1.63ha。しかし、参加人員も減少し、整備地域に急傾斜地などの危険箇所も多く、参加者が負傷する危険性を考え、24年度から新たに「篠栗町緑の自然環境再生事業」を行い、粗放竹林を広葉樹林とすることで、環境の森として保全することにした。

問

竹林整備は4～5年で元に戻る。今までの事業で行われた竹林は今どうなっているのか。

答【町長】

継続的な整備をお願いしているが、その後、整備されているところと元に戻っているところがある。



竹林整備

通学路の安全確保は

都市整備課長「危険箇所などに早期整備・改善・規制などを行う」



田辺 弘之

問.....

町のホームページに、町内の全小学校で18の対策必要箇所の公表がされているが、より安全な通学路を確保するため質問する。

①児童や保護者に通学路を周知させるため、通学路交通安全プログラムを定期的に行うのは。

②スクールゾーンの設定状況と今後の予定はどうなっているのか。

③ゾーン30など、より安全な交通安全対策強化を図ることができないか。

答【都市整備課長】
①平成27年2月に、福岡県より

「通学路の交通安全の確保に向けた、継続的な取り組みの徹底」について依頼を受け、交通安全対策会議を立ち上げ、通学路交通安全プログラムを策定し運用している。

②スクールゾーンの設定については、警察と道路管理者である町と協議し、認定するもので、萩尾分校を除く、小中学校の半径500mが指定済み。

③ゾーン30の指定は、地元住民、町、警察、それぞれの申し立てにより協議を行い、公安委員会が意見決定することになっている。

指定する地域は原則、周囲を2車線の幹線道路に囲まれていることや、指定するエリア内にある2車線の道路の中央線を取り除き、車線がない道路にすることなどの要件があり、本町の現状にはそぐわない。

通学路の安全対策強化を図るために、通学路交通安全プログラムによって把握した危険箇所などに、カラー舗装

やガードレールなどの早期整備・改善、時間帯による一方通行などの規制やゾーン30に準じた規制の要望を警察に行うことなどを検討したい。

答【教育長】
教育委員会では、通学路における児童生徒の生命身体の安全を守ることは、最優先に行うべきものと考え、子どもの安全確保のために三つの取組みを行っている。

- ・防災や交通安全にかかわる学校安全に関する全体指導計画」の作成と、計画的な実施。
- ・地域の方々、PTA、教職員の協働による通学路の安全確保。
- ・学校関係者と行政の協働による通学路の安全確保対策の推進。

問.....

通学路交通安全プログラムの公表は。

答【都市整備課長】
早期に整備し、掲載したい。



須恵町のゾーン30整備地区

ゾーン30
区域を定めて、時速30キロの速度規制を実施することにも、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、車の走行速度や通り抜けを抑制すること。

輝くまちの宝

スポーツの秋

町内の小学校で運動会が開催されました。練習の成果を発揮して、素晴らしい演技を披露する子どもたちの姿に感動しました。



北勢門小学校



萩尾分校

実りの秋



勢門小学校



勢門小学校生が田植えた田んぼに文字が出現
「I♥せと」

出現!! 田んぼアート

旬花衆灯

意見交換会の原稿を担当している。委員会で編集するが、強く意識するのは、その場の雰囲気や本音も飛び出して、裏話や興味深い。

毎々、興味深い。心掛けるのは将来・未来を聞くこと。

今回は寺子屋講師の皆さんに寺子屋の成り立ちから、どんな想いで生徒たちに接してきたか、将来に期待することなどを話していただいた。

今回で7回目となった意見交換会だが、篠栗の「今」が垣間見える。

これからも研鑽を積み、篠栗文化の一片を切り取りたい。

村瀬 敬太郎

村瀬 敬太郎

12月議会は

12/7(木) 開会

12/11(月) 一般質問

の予定です

発行責任者 議長 阿部 寛治

議会広報広聴委員会 委員長 栗須 信治/副委員長 古屋 宏治
委員 松田 國守・今長谷 武和・村瀬 敬太郎・田辺 弘之

平成29年11月1日発行

発行/篠栗町議会 福岡県糟屋郡篠栗町大字篠栗4855-5 TEL092-947-1111 FAX092-947-1442 印刷/株式会社三光